

協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。
 ※帰国後1カ月以内に提出(送信)してください。
 ※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	インディアナ大学パデュー大学インディアナポリス	氏名	
国名	アメリカ合衆国	学籍番号	
留学期間	2023年 8月 ~ 2024年 5月	記入年月日	2024年 6月 8日

1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野:			
科目名	.Introduction to Sociology (100)	科目名	Foundation of Journalism & Mass Communication (110)
授業内容	社会学の基礎を講義形式で学ぶ授業。	授業内容	ジャーナリズムの果たす役割について、映画や文章作品などを通して考え、話し合う授業。
授業形式	対面	授業形式	対面
単位数	3	単位数	3
サイズ	150人ほど	サイズ	25人ほど
難易度 Course No.	100	難易度 Course No.	110
宿題の量	普通	宿題の量	普通
コメント	社会学の基礎的な理論を学ぶことが自分の研究分野に役立つのではないかと思い、取った。大人数での授業で、教授とのコミュニケーションを取ることが難しいのではないかと心配していたが、学期の途中で教授と1対1で話す機会があり、安心して授業に臨むことができた。2週間に1回ほどの小テストと、2回のレポートの提出では、毎回ほぼ満点を取ることができた。	コメント	ジャーナリズムは、興味がありながら日本では取ったことのない分野だったので、この授業を取った。教授が熱心にコミュニケーションを取ってくれ、安心感を持って受けることができた。書くことがメインの授業だった。ジャーナリズムを題材にした映画を観て感想を書いたり、大学構内のジャーナリズムに関する展示についてレポートを書いたり、初めての経験を沢山することができた。
科目名	Mass Media & Contemporary Society (150)	科目名	Introduction to Women, Gender & Sexuality Studies (105)
授業内容	現代社会の中で、マスメディアの立ち位置や社会に及ぼす影響について、話題になった出来事を例に、考えを深める授業。	授業内容	社会における女性の立場や、女性が直面する問題を、文化的・歴史的背景や社会の中の複数の視点から学ぶ授業。
授業形式	対面	授業形式	オンライン
単位数	3	単位数	3
サイズ	40人ほど	サイズ	20人ほど
難易度 Course No.	150	難易度 Course No.	105
宿題の量	普通	宿題の量	普通
コメント	毎回の課題量はそこまで多くはなく、楽しみながら取り組める内容だった。授業においては、クラスメートが出す意見やアイデアから学んだり新たに発見したりすることが多く、同世代のアメリカの学生が持つメディアへの意識を感じた。学期末の課題の量が非常に多かったが、自分の興味のあるテーマについて、研究中の内容とも重ね合わせながら考えを深める良い機会になった。	コメント	唯一取ったオンラインの授業で、講義は実施されず、2週間に1回のペースで、教科書の指定された範囲を読み、自分の考えをレポートで提出するという形式だった。1度に出される課題の量が、他の授業とは比にならないほど多かったが、学期終盤には慣れた。新たに学んだことに加え、自分の前提知識もあり、毎回の課題と2回の調査レポートで、教授やクラスメートから高く評価してもらえた。

科目名	Race, Ethnicity, and Health (300)	科目名	Introduction to Sports Journalism (150)
授業内容	人種やエスニシティについて「健康」の側面から考える授業。	授業内容	スポーツジャーナリズムについて、記事を通して考え、話し合う授業。
授業形式	対面	授業形式	対面
単位数	3	単位数	3
サイズ	25人ほど	サイズ	6人ほど
難易度 Course No.	300	難易度 Course No.	150
宿題の量	少なめ	宿題の量	普通
コメント	自分の個人の研究テーマである「人種」という事柄に健康の側面から焦点を当て、数値データやドキュメンタリーなど、様々な資料から学びを深められた。教授もクラスメートも親切で、非常に楽しく学ぶことができた授業だった。課題はそこまで負担は大きくなく、授業の中でディスカッションをしたり意見を述べたりする機会が多かった。	コメント	秋学期のジャーナリズムの授業と同じ教授に教わった。実績と経験のあるスポーツライターであった教授と密にコミュニケーションを取りながら、実際の記事を分析し、自分が興味を持っていたスポーツ報道の新たな視点を得ることができた。少人数クラスであったため、学生1人1人がより積極的に発言し、教授と意見を交わす授業形態であった。
科目名	Race, Gender, and the Media (475)	科目名	Diversity Issues in Criminal Justice (275)
授業内容	現代社会の中で、マスメディアや映画、広告の意義や社会で議論された事例について、人種や性別などの視点から、考えを深める授業。	授業内容	司法制度や犯罪の実態について、アメリカ社会の多様性に着目しながら学ぶ授業。
授業形式	対面	授業形式	対面
単位数	3	単位数	3
サイズ	40人ほど	サイズ	30人ほど
難易度 Course No.	475	難易度 Course No.	275
宿題の量	普通	宿題の量	少なめ
コメント	400番台の授業であったため、受講する前に非常に悩んだが、ジャーナリズムとアメリカ国内の多様な社会問題との関わりを考える上で重要な授業テーマだと思い、受講した。授業では、シラバスで決められたテーマの他にも直近のニュースの話題を議論することも多く、同世代のアメリカの学生と共に、政治や国内外の問題、そしてそれを伝えるメディアのあり方を学ぶことができた。	コメント	毎週、人種や性別、年齢など、多様な各カテゴリーに焦点を当て、アメリカ国内での犯罪や社会問題などをデータを用いて分析した。週1回の授業だったため、そこまで負担は大きくなく、criminal justiceという、日本で学んだことのなかった観点で自分の研究テーマに深みを持たせられたと感じた。講義がメインで、学生同士の交流は少なめだったが、教授の対応が丁寧で親切だった。
科目名	Searching for America (101)	科目名	
授業内容	オンラインで配布される資料をもとに、魔女裁判について複数の観点から考察する授業。	授業内容	
授業形式	オンライン	授業形式	
単位数	3	単位数	
サイズ	30人ほど	サイズ	
難易度 Course No.	101	難易度 Course No.	
宿題の量	普通	宿題の量	
コメント	春学期唯一のオンライン授業で、アメリカで過去に起こった魔女裁判について人種や貧困、宗教などといった観点から資料を用いながら考えを深めた。過去の事例ではあるが、排外主義や人種主義など、現代社会で進む議論と同様のテーマを見つめる機会は貴重だったと感じる。数回出されたエッセイの課題では、アメリカの歴史を学ぶという点からも高く評価してもらった。	コメント	

2	<p>授業において困ったこと、その解決法について教えてください</p> <p>特に大人数での講義形式の授業は、教授がジョークを言っても理解できなかったり、授業で確認したいこと(内容から事務的なことまで)を自分で解決するしかなかったりすることもあり、教授に「自分が留学生であること」を理解してもらうことと、1つの授業で最低1人は友だちを作ることを意識した。教授とのコミュニケーションや関係性を築くことは、少人数のクラスであれば初日の自己紹介の際に可能だが、早ければ早い方が良いし、分からないことは積極的に質問すべきだと思う。</p>				
3	<p>授業以外の活動についてお書きください</p> <p>JCCという日本語や日本文化を学ぶクラブの活動に週1回参加し、沢山の現地学生とクラブ内外で交流した。</p>				
4	<p>寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください</p> <p>寮(またはアパート、フラット)名とその場所</p> <p>International House 115</p> <p>設備についての簡単な説明</p> <p>4つの個人部屋と、2つのトイレと風呂、洗面スペース、共用のリビングとキッチンがあった。各個人部屋には、デスクとベッド、タンスが置かれていて、クローゼットもあった。リビングにはテーブルとソファが、キッチンには冷蔵庫と電子レンジ、オーブンが備え付けてあった。また、4人で共用の洗濯機と乾燥機が1つずつ備え付けてあった。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="183 1137 512 1171">部屋について</td> <td data-bbox="512 1137 671 1171">4人部屋</td> <td data-bbox="671 1137 858 1171">広さ</td> <td data-bbox="858 1137 1485 1171">畳くらい</td> </tr> </table> <p>ルームメイトについて</p> <p>秋学期はアメリカ人1人、インド人大学院生1人との3人で4人部屋を使っていた。春学期からは、アメリカ人が1人増えた。</p> <p>寝具や生活用品の入手方法</p> <p>日本から持って行けなかった分は、ダウンタウンにある店や、Amazonで入手した。ルームメイトに借りることもあった。</p> <p>生活の感想</p> <p>収納スペースは十分あり、ルームメイトは皆綺麗好きで、共同スペースやキッチンが散らかることもなく、割と快適に過ごすことができたので、特に困ったことはなかった。入居時に渡される個人部屋の鍵は、ルームメイトとのトラブルを避けるためにも念のために利用していたし、特に部屋が1階だったので防犯面は意識していた。夜間の戸締まりとブラインドを閉めることを意識した。旅行などでルームメイト全員が寮を空ける時もあったが、特に私の部屋は1階なので、部屋の電気を付けたままにして出るなど、部屋に誰もいないことが外から分からないようにしていた。I House Loungeという、Internationak Houseに住む学生が自由に使えるスペースをよく利用し、そこで勉強をしたり映画を観たりすることも多かった。</p>	部屋について	4人部屋	広さ	畳くらい
部屋について	4人部屋	広さ	畳くらい		
5	<p>食事についてコメントを書いてください</p> <p>基本的に自炊をしていた。無料で食料品をもらうことができるパントリーに登録し、週1回の頻度で利用していた。</p>				

6	医療保険についてお書きください	
	渡航前に加入した保険	
	Ossma Plus 上乗せ海旅	
	留学先大学にあった医療保険制度	
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)	
TBテスト		
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)	
	(現地通貨)	
	渡航旅費	190,000 円
	帰国旅費	210,000 円
	引越し(往復で)	0 円
	保険	79,250 円
	語学研修費	0 円
	留学先学費	0 円
	本学学費	200,000 円
	教材費	76 11,400 円
	住居費	8,428 1,264,300 円
	食費	500 75,000 円
	その他(予防接種)	110,000 円
	(生活/交 際費)	2,300 340,000 円
	()	円
合計	2,479,950 円	
換算率 (<input type="text" value="1"/> = <input type="text" value="150"/> 円)		
受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください		
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金(給付)		
8	留学前の準備について教えてください	
	日本から持参すべきもの	
	電子レンジでお米が炊ける/パスタが茹でられるグッズ、アルミホイル、ジップロック、洗濯ネット、枕、ウェットティッシュ、有線LAN(必要に応じて)	
	留学前にしておけばよかったこと	
可能であれば、秋学期に受講する授業に早めに目星をつけ、教科書を購入する必要性やシラバスの内容確認などに時間を割けると良いと思う。		

9	<p>適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください</p> <p>秋学期は、課題が重めの授業を多く受講し、また、週に2回授業があるスケジュールに慣れるのにも時間がかかり、友人とのスケジュール管理の差異が大きかったことが印象的だった。また、日本の就職活動の時期にアメリカに滞在することになったので、特に春学期の後半は、期末課題との並行作業とタイムマネジメントが難しくなると感じた。生活面では、特に冬の時期に気温への適応に苦労した。部屋の中の空調が共同で使うことができるのが1つのみで、寒くなってきた時期に、ルームメイトと気温の感覚が合わず、部屋が寒く体調を崩したことがあった。</p>
10	<p>留学の成果(学習面・精神面)を教えてください</p> <p>留学前や留学初期よりも、授業での速い内容のリスニングや、日常会話がスムーズにできるようになり、英語を学ぶだけでなく英語を使って学ぶことに慣れた。個人の研究内容に関わる内容の授業も受講し、今までになかった視点から自分の学びを深めることに繋がった。アメリカ合衆国で大きく問題になっている事例を取り上げるテーマでもあるため、現地学生と共に、彼らの意見や考えを聞きながら学ぶことができた経験は、個人的にも大きな意味を持つと感じた。精神面では、自分で物事を決断したり長期的・短期的な視点の双方を必要としたりする場面が多く、留学前よりも自立/自律が求められたし、意識する場面も多かった。その中で、自分の意見や考えをしっかりと持つようになり、行動力がついたと感じる。</p>
11	<p>今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください</p> <p>今後は、来年3月での卒業を考えているため、留学前から個人の研究として進めていた内容を今年中に卒論としてまとめる。進路については、帰国前からオンラインで就職活動の準備を進め、帰国後に面接を受け、希望していた新聞社への就職が決まった。日本では取る機会がなかったジャーナリズムの授業を留学先で受講し、メディアの報道姿勢のあり方やジャーナリズムの基本について、日本国内とは違う視点から学ぶ機会を得ることができたので、これからの将来に少しでも役に立てることができれば幸いである。</p>
12	<p>留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします</p> <p>留学を決断することはそう簡単にできることではないですし、資金面や書類などの事前準備、卒業を見据えたタイムマネジメントなど、留学前や留学中などにやらなければいけないことは非常に多くあります。ですが、約10ヶ月という留学期間を終えて感じることは、この留学を決断し、やりきったことで得られた経験や学びは何にも代えがたく、自分の人生におけるプラスの時間とすることができたということです。特に、私は4年に進む前のギリギリのタイミングで留学を決め、就職活動の時期にも重なるため、家族と何度も話し合いました。</p> <p>「留学に行ったから～」という理由で何か有利になるというわけでもないですし、一定のお金や時間をかける必要もあるの思い出作りのために行くべきでもない個人的には思います。留学を目指す皆さんに考えてほしいことは、自分が何のために留学を決断し、何を学びたいのかという目的意識を強くはっきりと持っているかどうかということです。慣れた環境から離れた留学期間をどう過ごすかには、これといった正解はないと思いますが、困難に直面したり自分がどうすべきか迷ったりした時に自分の指針となるのは、他でもなく自分の意志と目的意識です。私は、幸い、人にも環境にも恵まれ、有意義な時間を過ごすことができ、当初の目的でもあった個人の研究テーマに深みを持たせる視点を得ることができたと感じています。この体験記が少しでも留学を目指す皆さんの一助となれば幸いです。</p>
13	<p>その他、ご自由に意見を書き込んでください</p>

※本報告書は国際センターホームページに掲載します。下記のいずれかに✓をしてください。

国際センターホームページへの報告書の掲載を

(許可する(写真含む) 写真掲載のみ不可 許可しない)

※Web掲載を許可する場合は、報告書は手書きではなくパソコン入力してください。
ホームページに掲載する際は、個人情報(学籍番号および氏名)は非公開とします。



寮で出会った大好きな友だち！



冬は-20°Cに(夏にボートレースがあった運河)



日本語を現地学生に教えるボランティア活動

